広 島 県 感 染 症 発 生 動 向 月 報

[広島県感染症予防研究調査会]
（平成１７年３月解析分）

１　疾患別定点情報

定点把握（週報）五類感染症　　平成１７年２月分(平成17年１月３１日～２月２７日：４週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
1	インフルエンザ	11,245	23.43	14.66	⬆	12	ヘルパンギーナ	9	0.03	0.07	
2	ＲＳウイルス感染症	28	0.09	－	⬇	13	麻しん	2	0.01	0.05	
3	咽頭結膜熱	62	0.21	0.16	⇘	14	流行性耳下腺炎	400	1.33	0.70	⇗
4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	314	1.05	0.99	⇗	15	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.03	
5	感染性胃腸炎	3,081	10.27	11.47	⬊	16	流行性角結膜炎	82	1.03	1.05	⇗
6	水痘	460	1.53	1.74	⬊	17	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.02	
7	手足口病	34	0.11	0.12	⇨	18	無菌性髄膜炎	4	0.05	0.02	
8	伝染性紅斑	35	0.12	0.17	⇗	19	マイコプラズマ肺炎	20	0.24	0.17	⇗
9	突発性発しん	171	0.57	0.64	⇘	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	1	0.00	0.02		21	成人麻疹	0	0.00	0.00	
11	風しん	3	0.01	0.02							

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

急増減	増減	微増減	横ばい
⬆	⬈	⇗	⇨
⬇	⬊	⇘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	殆ど増減なし（発生件数少数のものを含む）

※定点について
　定点情報は，定点把握対象の五類感染症（週報対象 21 疾患，月報対象 7 疾患）について，県内 188 の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1～14	15，16	22～25	17～21，26～28	
定点数	45	75	20	27	21	188

定点把握（月報）五類感染症　　平成17年２月分（２月１日～２月２８日）

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	39	1.44	2.01	⬇	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	93	4.43	5.78	⇩
23	性器ヘルペスウイルス感染症	13	0.48	0.48	⇩	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	45	2.14	2.19	⇨
24	尖圭コンジローマ	11	0.41	0.42	⇩	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	3	0.14	0.21	
25	淋菌感染症	10	0.37	0.87	⇩						

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

２　一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

○ 一類感染症　　発生なし
○ 二類感染症　　発生なし
○ 三類感染症　　発生なし
○ 四類感染症　　5件発生【Ａ型肝炎3件（広島市保健所管内），オウム病1件（福山市保健所管内），つつが虫病1件（広島地域保健所管内）】
○ 全数把握五類感染症　　4件発生【ウイルス性肝炎1件（福山市保健所管内），クロイツフェルト・ヤコブ病1件（呉市保健所管内），劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件（尾三地域保健所管内）バンコマイシン耐性腸球菌感染症1件（福山市保健所管内）】

３　一般情報

○ 今シーズンのインフルエンザ状況

今シーズンの発生状況は，昨シーズンと比較して，2週間程度発生の立ち上がりが遅く，1月の第3週（17日～23日）頃から増加傾向になり，2月2日，流行の目安である定点120の医療機関からの報告数が1.0人を上回ったので「県内のインフルエンザの流行状況について」を県民に広報を実施した。

2月の第６週（7日～13日）に入り急速に患者が増加し，2月16日には定点医療機関からの報告件数の値が，10.0人を超えたので「注意報」を発令し，2月23日には定点医療機関からの報告件数の値が30.0人を超えたので「警報」を発令した。

その後，感染症法が改正されてからの週当たりの定点医療機関の患者数が第8週（2月21日～27日）で5,187人（平成11年の5,089人）と過去最高となったため，再度県民に「県内インフルエンザの流行情報」を発し注意喚起を促した。第9週（2月28日～3月6日）は，6,087人と患者数が増加した。また，県内でも2例（尾三地域保健所管内，広島市）のインフルエンザによる死亡例の報告があった。

全国的にもインフルエンザの発生が続いており，今後とも感染には十分注意をする必要がある。

今シーズンのインフルエンザの型別は県内ではＢ型が多く検出されている。全国的には，Ａ香港型とＢ型の発生が主流であるが，一部の地域ではＡソ連型が検出されている。

集団風邪については，3月10日現在，113の小・中学校，幼稚園等で学級閉鎖等があり，患者数は8,797人となっている。

今シーズンの，抗ウイルス薬は医療機関には十分あり，インフルエンザに感染したら早めに医療機関を受診しましょう。

【インフルエンザの予防対策】

①外出時には，マスクを着用し人ごみはなるべく避ける。
②外出先から帰宅後は，うがい，手洗いを励行する。
③食事は栄養バランスを考えたメニューを心がける。
④インフルエンザウイルスは，乾燥していると増殖しやすいことから，室内の湿度（50～60%）を保つことで感染防止対策になる。

インフルエンザにかかったかなと思ったら，安静にし，早めに医療機関で受診しましょう。

○ 今後注意を要する感染症

①咽頭結膜熱

本疾患の病原体は，アデノウイルスで，症状は，発熱，頭痛，食欲不振，全身倦怠感，咽頭炎による咽頭痛，結膜炎に伴う結膜充血，眼痛，流涙の症状があり，病原体診断や血清学的診断をあわせて，当該疾患と診断される。

潜伏期間は，5日～7日で，感染経路は，通常は患者からの飛沫感染が主であるが，経口あるいは経結膜感染もある。

②流行性耳下腺炎

本疾患の病原体は，ムンプスウイルスで，症状は，急に始まる唾液腺の有痛性腫脹，両側耳下腺の腫脹，顎下腺の腫脹，発熱は唾液腺腫脹前から出現し，腫脹ピーク時まで持続，3～10%に無菌性髄膜炎の合併症を併発。潜伏期間は，12～25日(通常は16～18日)，感染経路は，飛沫感染と接触感染。治療は，基本的には対症療法で，発熱や疼痛に対しては，鎮痛解熱剤の投与，髄膜炎合併に対しては安静が必要である。